

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武	整理番号	10
基本施策	3	水産業の振興	評価 責任者	産業振興課長 石井 弘道
単位施策	3	消費・流通対策の拡大		

1 施策の概要

基本方針	地域が一体となって、水揚げから加工・流通に至る衛生管理や鮮度・品質の保持を進め、雄武ブランドの付加価値を高めるほか、新しい加工品の開発や効果的な販売戦略を創意・工夫し、消費の拡大につなげます。更に、漁業・水産加工の公開、体験等マリン・ツーリズムを展開する。		
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）	
	漁協・水産加工協を中心にブランド化の取り組みが進み、メジカ、毛ガニ、ホタテ、コンブ、タコ等が市場での高い評価につながっているほか、販売についても漁業直販店「海鮮丸」、水産加工協産直店「海宝」が開設され、道外での展示即売やネット販売などの取り組みが進められているほかサケ（雄宝・活ジメ）の付加価値向上を図っている。	漁協・水産加工協を中心にブランド化の取り組みが進み、秋サケ（メジカ、雄宝）、毛ガニ、ホタテ、コンブ、タコ等が市場で高く評価され魚価・製品の価格向上につながっている。また、販売についても地元直販店やネット販売を展開するほか、道内外での展示即売・商談会など市場拡大に取り組んでいる。	
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）	
	雄武ブランドの付加価値を高めること及び、新しい加工品の開発や効果的な販売戦略を創意・工夫し、消費の拡大につなげる必要がある。	雄武ブランドの更なる付加価値の向上のため、海外輸出も視野に入れた衛生管理体制の強化、6次産業化の推進を図ることが必要である。	

2 基本施策指標

指標1	指標名	漁業生産額						
	定義等	年間の漁獲金額						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	39.4億円	39.5億円	39.2億円	48.3億円	56.9億円		45億円
指標2	指標名	ホタテ生産量						
	定義等	年間のホタテ水揚量						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	7,647t	9,661t	14,580t	15,751t	13,258t		15,000t
指標3	指標名	サケ・マス漁獲量						
	定義等	年間のサケ・マス漁獲量						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値	2,416t	1,775t	2,865t	3,390t	2,949t		3,800t
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	【再掲】雄武地区特定漁港漁場整備事業（漁港整備）	水産係	26,652	A	継続／現状維持	A
②	【再掲】水産物供給基盤機能保全事業	水産係	539	A	継続／現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	水産業は町の基幹産業であり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の活性化を推進するうえで、消費・流通対策の拡大を図る必要がある。
② 有効性	A	各単位施策事業が計画的に進められており、基本施策指標値の達成に向けての効果が表れている。
③ 効率性	A	マリンビジョンの推進など農林水及び商工関係者が連携し、地域が一体となった取組を進めており、効率的に進められている。
④ 公平性	A	受益者分担金の徴収や事業実施主体に対し事業内容に見合った適正な補助を行っているなど、公平性が保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	消費・流通対策の拡大に係る各種施策は、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
水産業の振興を図るうえで、消費・流通対策は生命線の役割を担っており、雄武ブランドの推進による効果も大きいことから、地域経済全体の活性化につながるものである。	同左	

今後の方向性

継続／現状維持	継続／現状維持	
水産業は町の基幹産業であり、水産加工業をはじめとした関連産業への波及効果も大きく、地域経済の振興を図るため、消費・流通対策の拡大に向けた施策の継続が必要である。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止